れでぃす・ねっとわーく

VOL.56　spring

2010年3月31日

編集／釜石市総務企画部少子化対策・男女共同参画推進室

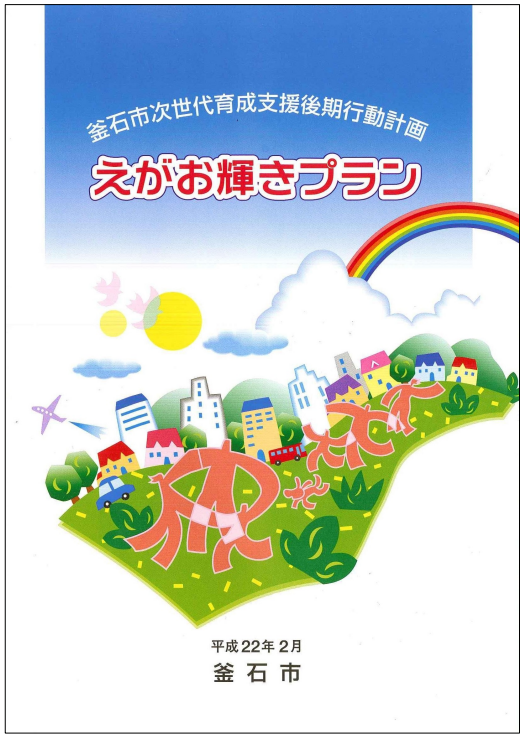
〒026-0024　釜石市大町 3-8-3 青葉ビル
TEL/FAX ; 0193-22-6002
URL ; http://www.city.kamaishi.iwate.jp/
E-mail ; Syousi@city.kamaishi.iwate.jp

◎ 特集
「釜石市次世代育成支援後期行動計画～えがお輝きプラン～」
◎ さんかくニュース
「『男女共同参画サポーター養成講座』受講者募集」
「広域振興局再編に伴う配偶者暴力相談支援センターの指定の変更等について」
◎ インフォメーション
「少子化対策・男女共同参画推進室の移転について」
「れでぃす・ねっとわーく」ほか

特集

釜石市次世代育成支援後期行動計画

え・が・お・輝・き・プ・ラ・ン



この度市では、子どもの笑い声がまちのあちらこちらから聞こえる、親子の絆・家族の絆・地域の絆でつながった活力あるまちを目指して、釜石市次世代育成支援後期行動計画「えがお輝きプラン」を策定しました。

市では、平成17年3月に子どもと子育て家庭への支援のため、釜石市次世代育成支援行動計画「いきいき子育てプラン」を策定し、医療や福祉、教育の各方面から各種少子化対策を講じてきましたが、それが目に見える成果として実感できるものにはなっていないという現状があります。

こうしたことから、「子どもに未来を　市民にやさしさを」を基本姿勢として、地域で支える少子化対策を重点項目に掲げ、積極的な取組みを進めています。

子どもは地域の希望であり、宝であるという思いから、子育てを地域全体で応援していくため、「釜石市子育て応援カード（通称かまリンカード）事業」を市内の商業者の皆さんのご協力の下に開始したほか、企業にも男女共同参画・ワーク・ライフ・バランスの観点から子育て家庭を支援していただこうと「釜石市子育て応援起業認定制度」を創設したところです。

「えがお輝きプラン」は「生まれる喜び　育てる楽しさ　絆と笑顔あふれるまちづくり」を基本理念に掲げています。これには、赤ちゃんの誕生が地域全体から祝福され、子育ての喜びを体感でき、子ども達が思い出いっぱいのふるさと釜石を心に刻んで成長し、やがては地域活力の源になっていくという強い信念が込められています。

また、結婚し、安心して出産、子育てができ、地域の豊かな自然と文化の中で人間性を育み、地域で活躍できる次世代を育てていくという「家族の周期」に適った切れ目のない効果的な少子化対策を推進していくための道標となります。

今号では、「釜石市次世代育成支援後期行動計画『えがお輝きプラン』」を特集します。

1．計画の趣旨

少子化の進行は、「家族」の形態の変化や子ども同士の交流機会の減少など社会面での影響が懸念されるほか、労働力人口の減少による経済成長の鈍化や生活水準の低下など、社会経済全体に極めて深刻な影響を与えます。

このため、結婚・出産・子育て・教育・自立そして結婚へとつながる家族の周期の中で、切れ目のない効果的な施策体系を構築し、誰もが安心して生み育てることができるまちづくりを推進します。

2．計画の期間

平成22年度から平成26年度までの5年間

3．計画の理念

生まれる喜び　育てる楽しさ　絆と笑顔あふれるまちづくり

４．計画の内容

◆◆◆計画の基本目標及び施策の方向◆◆◆

【基本目標Ⅰ　結婚への自覚と意欲を高める支援】

出生率の低下の主な要因には、晩婚化の進行などによる未婚率の上昇があります。その背景や要因は多様ですが、不安定な若者の生活基盤や出会いの機会の減少、結婚に関する男女間の価値観の相違や期待する効用の低下などが指摘されています。

結婚や出産は個人の決定に基づくものですが、結婚や子育ては、「共に生きていくことがお互いの大きな支えとなり、生きる力、希望、喜びを感じさせるもの」であり、愛する者と前向きな生き方を選択できるよう、結婚に対する自覚と意欲を高め、一人ひとりが結婚に夢と希望をもてるような社会環境づくりに努めることが必要です。

（１）結婚に対する意識の啓発
①独身者の自己啓発活動支援
②親の結婚観や冠婚葬祭の見直し啓発

（２）結婚するための機会の提供
①出会いの場創出
②青年活動、青年交流の場の充実

（３）結婚に向けた環境整備
①新婚世帯向け市営住宅確保等の研究
②若い世代にとって魅力のある雇用創出の促進
③若者の企業への支援

【基本目標Ⅱ　安心して妊娠・出産・子育てができる保健医療体制の充実】

妊娠・出産・育児の時期は、心身やライフスタイルに変化をもたらしますが、核家族化により育児体験を聞く機会や相談をする相手もなく、そのことで育児不安に陥ったり、児童虐待につながる場合もあります。

すべての子どもが健やかに生まれ成長できるように、疾病の早期発見や児童虐待の予防を図り、妊娠期から継続した育児支援を推進します。また、安心して出産できるよう、小児及び周産期に関わる関係機関の連携強化を図るとともに、不妊治療に対する正しい知識の普及、情報提供を行うほか、特定不妊治療費助成等の支援をします。

（１）母と子への健康支援
①疾病の早期発見・母子保健事業の推進
②妊娠・出産・育児に関する保健指導の充実
③育児に関する情報提供とサービスの充実

（２）医療等の支援
①一般健康診査、医療費助成の充実
②周産期医療・小児医療の連携強化
③特定不妊治療費助成

【基本目標Ⅲ　安心して子育てのできる豊かで安全な地域づくり】

核家族の増加や社会経済情勢の変化にともない、子育てに対する不安や負担を感じる家庭が増えてきています。地域の連帯意識が低下していることで、子育て家庭の孤立化も問題になっています。育児の不安解消のため、相談・指導活動を充実させ、多様なニーズに合わせた質の高い保育サービスの提供や放課後児童の居場所の確保、家庭の経済的負担の軽減など、子育て家庭にやさしい環境を整え、「子育ては社会全体で応援する」市民意識の情勢など、子育て支援体制を構築します。

（１）地域における子育て支援
①地域子育て支援センターの充実
②地域で子育て応援

（２）保育サービスの充実と質の向上
①保育サービスの充実
②保育サービスの質の向上

（３）放課後児童の健全育成
①放課後児童の健全育成の推進

（４）援助を必要とする家庭への支援
①子どもの虐待防止
②ひとり親家庭の自立支援
③障がい・発達に心配のある子どもの支援

（５）子どもの安全の確保
①子どもの交通安全教育や防災教育の推進
②子どもを犯罪や事故から守るための活動推進
③保育所・幼稚園・学校等の耐震化の推進

【基本目標Ⅳ　生きる力・創造性・社会性を育む教育環境づくり】

子ども達を取り巻く環境は大きく変わってきました。社会の変化が、子ども達の自律性や学ぶ意欲の低下、自己中心的な傾向、忍耐力や継続力の低下、人間関係を築く能力や体力の低下、心身のゆとりの喪失など、子ども達の心身に変容をもたらしています。学校と家庭、地域の三者が連携・協働して、次代の担い手である子ども達が、社会の変化に的確に対応していくために重要な「豊かな心」「確かな知識」「たくましい体力」など「生きる力」を育む学校教育を推進します。

（１）思春期の心と身体の健康づくり
①子どもを生み育てること及び命の大切さの意義に関する教育支援
②発達段階に応じた食育の推進

（２）子どもの居場所づくり
①子どもの活動の支援
②児童館や公民館事業の充実

（３）子どもを取り巻く有害環境への対応
①子どもを取り巻く環境浄化

（４）子どもの生きる力を育成する教育環境の整備
①学校教育の充実
②高等教育修学のための支援
③キャリア教育の推進
④家庭教育に関する学習機会の拡充

【基本目標Ⅴ　生活も仕事も充実し両立する環境づくり】

子育て支援は、単に親の負担を軽減することが目的ではなく、親子の関係を良好にし、子育ての喜びを実感できることを通じて、家族機能や家族の絆を強めることにつなげていくことにもあります。子どもを生み育てる人が、就業等においても不利な立場に陥らないように、子育てと仕事の両立支援の推進や、子育て期の家族が子どもと過ごす時間を十分に確保できるようワーク・ライフ・バランスの実現に努めます。

（１）子育てと仕事が両立する職場環境づくり
①職場環境の改善に向けた啓発
②企業の子育て支援の取り組みの推進

（２）固定的な性別役割分担意識や働き方の見直し
①固定的な性別役割分担意識の是正
②働き方の見直し

◆◆◆基本目標別指標一覧◆◆◆

	指　　標	単位	現状（20年度）	目標値（26年度）	摘要
基本目標Ⅰ	自己啓発講座参加者数	人	－	100	累計値
	出会いの場参加者数	人	68	100	
	新規事業創出件数	件	3	8	累計値
	新規高等学校卒業者地元就職率	%	36.6	50	
基本目標Ⅲ	保育所待機児童数	人	2	0	１０月末現在
	ゆいっこサポートセンター会員登録数	人	117	120	
	子育て支援センターの開設	箇所	3	4	
	子育て応援カード（かまリンカード）交付率	%	51.6	80	
	子育てに関して不安を感じる保護者の割合	%	－	30	
	希望した時期に保育サービスを利用できたと感じる割合	%	45.8	100	
	障がい児を受入れる体制のある学童育成クラブ数	箇所	－	9	

	指　　標	単位	現状（20年度）	目標値（26年度）	摘要
基本目標Ⅱ	６ヶ月までにＢＣＧ接種を終了した者の割合	%	99.2	100	
	こんにちは赤ちゃん事業による訪問割合	%	87.0	100	
	相談できる人・機関がある保護者の割合（妊娠時）	%	－	100	
	相談できる人・機関がある保護者の割合（３ヶ月時）	%	－	100	
	相談できる人・機関がある保護者の割合（３歳時）	%	－	100	
基本目標Ⅳ	思春期講演会の開催回数	回	2	10	累計値
	朝食の欠食率（中学生）	%	9.6	7.8	
	肥満の割合（中学生）	%	20.5	13.9	
基本目標Ⅴ	子育て応援企業認定制度認定企業数	件	－	5	
	パパママ準備教室への男性参加率	%	81.5	90	
	仕事と生活の調和の実現が図られていると感じる割合（希望と現実の差）	%	－	70	

※累計値：Ｈ２２～２６の累計とする

５．計画の推進

計画の推進が実効性のある取り組みとなるよう、市民、有識者で構成する釜石市次世代育成支援対策地域協議会から意見や提言を受けながら、釜石市少子化対策推進本部において、計画の進捗状況を把握し、進行管理を行い、公表していきます。

県～　平成22年度「男女共同参画サポーター養成講座」受講者募集

岩手県と岩手県男女共同参画センターでは、男女共同参画に興味・関心があり、その推進活動に意欲のある方を「男女共同参画サポーター」として養成します。

5月～11月の間に計8回の講座を開催し、13単位以上修了した方が「男女共同参画サポーター」として岩手県知事より認定されます。

【開催期間】平成22年5月～11月（計8回）
【開催場所】いわて県民情報交流センター（アイーナ）　8階会議室803　他
【募集人員】 50名程度
【応募対象】県内に在住する20歳以上の方
【応募方法】受講申込書（男女共同参画センターまたは各市町村担当窓口にあります。ＨＰからもダウンロードが可能です。）に必要事項を記入の上、５月７日（金）までに、居住する市町村の男女共同参画行政担当課に提出してください。
【受 講 料】受講料は無料ですが、「①講座受講テキスト代1,500円」、「②交通費や宿泊費、昼食費等」は受講者の負担とします。
【託　　児】託児室を用意します。対象は1歳程度から就学前の幼児で、利用料は1人につき1日1,000円（昼食代込み）。半日は500円。

詳細については、岩手県男女共同参画センター（電話：019-606-1761）にお問い合わせください。

県～　広域振興局再編に伴う配偶者暴力相談支援センターの指定の変更等について

「配偶者暴力相談支援センター」に指定されている「釜石地方振興局保健福祉環境部」が、岩手県の広域振興局再編に伴い、平成22年4月1日より「沿岸広域振興局保健福祉環境部」となります。

《被害女性の相談窓口一覧》

相　談　機　関	電　話　番　号
釜石市地域福祉課児童家庭係	22－0177
釜石警察署	22－0110
※沿岸広域振興局保健福祉環境部	25－2702
※岩手県福祉総合相談センター	019－629－9610
	019－652－4152(夜間)
	019－629－6568(土日祝日)
※岩手県男女共同参画センター	019－606－1762

← 変更

※印の機関は「配偶者暴力相談支援センター」に指定されています。

女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

INFORMATION

市少子化対策・男女共同参画推進室が移転します !!

青葉ビルに事務室を構える市少子化対策・男女共同参画推進室が、平成22年4月1日より、釜石市役所本庁舎へ移転します。
引き続き、市民の皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

移転後の連絡先･･･

<釜石市総務企画部少子化対策・男女共同参画推進室>
住所：〒026-8686 釜石市只越町3-9-13
電話：0193-22-2111　ファックス：0193-22-2686
電子メール：Syousi@city.kamaishi.iwate.jp

情報･アイデア 募集中 !!

市少子化対策・男女共同参画推進室では、れでぃす・ねっとわーく掲載用の情報・アイデアを随時募集しています。

【お問い合わせ】
市少子化対策・男女共同参画推進室
TEL:0193-22-2111
FAX:0193-22-2686
E-mail　↓↓↓
Syousi@city.kamaishi.iwate.jp
件名に"れでぃす・ねっとわーく宛"とご記入ください。

異動の時期になりました。当室では３人中２人が転出します。寂しくなりますが、当室の応援団が増えるんだと思うことにしました。新しい職場でも「がんばって」と明るく送り出すことにします。まだ春は名のみで寒暖の差が激しいので、みなさんご自愛ください。　（Ｋ．Ｉ）

２年間の在職中に様々な出会いや発見がありました。お付き合いいただいたたくさんの皆さまに感謝いたします。その大きな財産をお土産に、４月からはまた１年生です。お世話になった恩返しがいつの日か出来るよう、日々精進してまいります。　（Ｙ．Ｃ）

先日「湯浅誠講演会」を聴講してきました。改めて貧困の切なさを痛感しました。私も貧乏に育ちましたが今思えば講師の言う「溜め」があったからこそ今でも元気なんだと思います。家族の助け合い、地域の助け合い、決して失くさないよう精進したいと思います。　（Ｔ．Ｎ）